

# 感染症発生動向情報

(大分市保健所)

大分市

(2020年35週 8月24日～8月30日)



コメント欄

**ヘルパンギーナは定点あたりの患者報告数が2.36と注意が必要です**

ヘルパンギーナは、ウイルスの感染によって突然の発熱と口の中の粘膜に小さな水ぶくれ(水疱)ができる感染症です。原因ウイルスは複数の種類があるので何度もかかる可能性があります。感染は、せきやくしゃみ鼻水、水疱、便の中に含まれるウイルスが手などを介して口や鼻の中に運ばれることによって起こります。子どもを中心に主に夏に流行します。口の中の水疱が破れると痛みを伴うため、食欲が落ち、水分が十分に摂れなくなることがあります。脱水症状(おしっこの量が少ない、不機嫌等)に注意してください。予防するためにも手洗いは流水とせっけんで行い、排泄物は適切に処理してください。また、タオルの共用はやめましょう。

	1			2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	A型	B型	不明	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱(プール熱)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(水ぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎
0歳							0.36				0.09	0.45		
1～3歳					0.09		2.18	0.09			0.09	1.82		
4～6歳						0.37	1.45				0.09	0.09		0.09
7～9歳						0.09	1.55							
10～14歳						0.09	0.64	0.09						
15～19歳							0.18							
20歳以上														
計	0.00			0.00	0.09	0.55	6.36	0.18	0.00	0.00	0.27	2.36	0.00	0.09
70歳以上(再掲)														
前週	0.00			0.00	0.27	0.45	6.64	0.09	0.18	0.00	0.64	2.36	0.00	0.27

※指定された医療機関(定点)から報告された患者数を、1定点あたりに概算して計上(定点数 インフルエンザ17 小児科11)

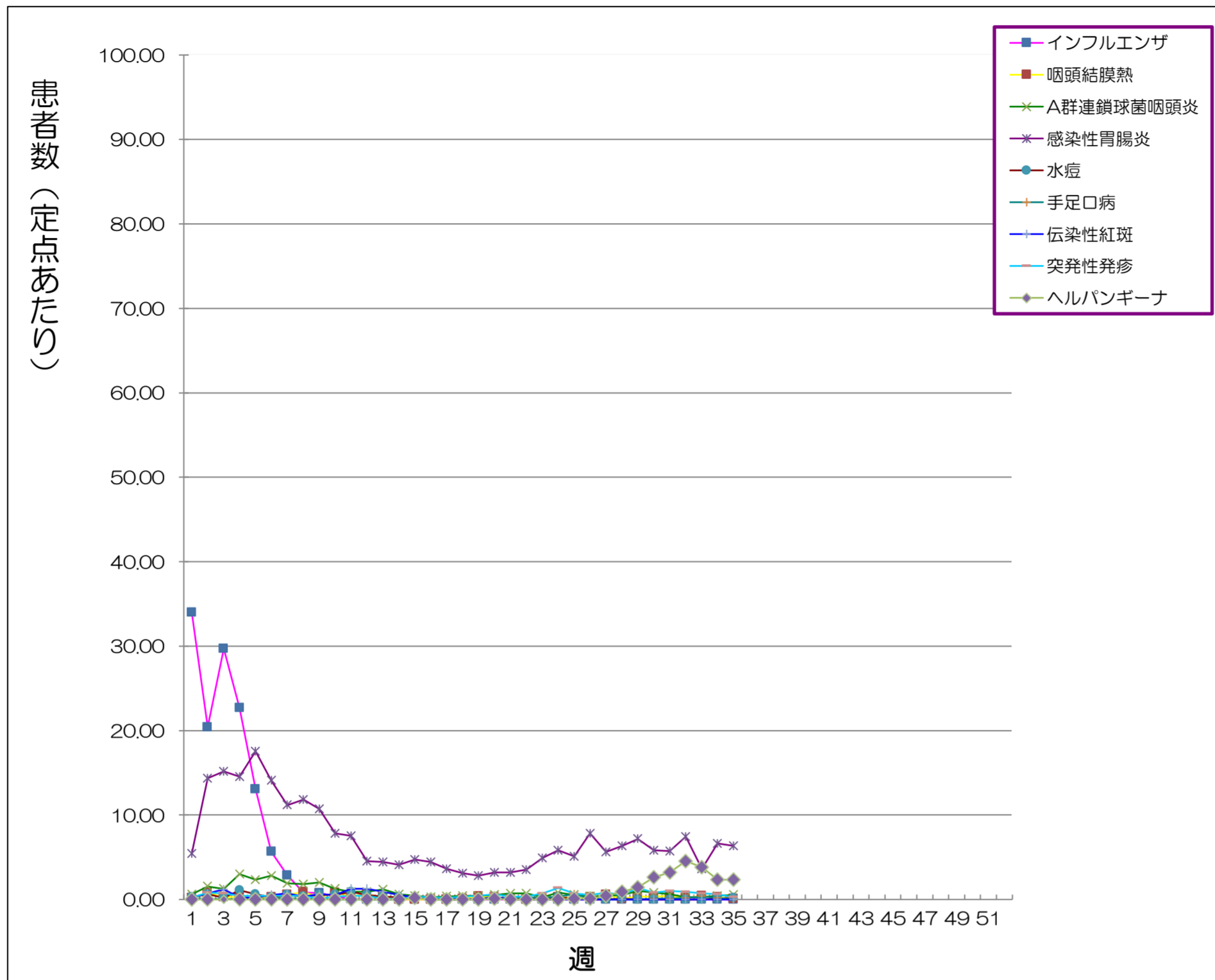
☆2008年1月1日より、麻しん及び風しんはすべての医療機関から報告のある全数報告に変わりました。

☆2018年1月1日より、百日咳はすべての医療機関から報告のある全数報告に変わりました。

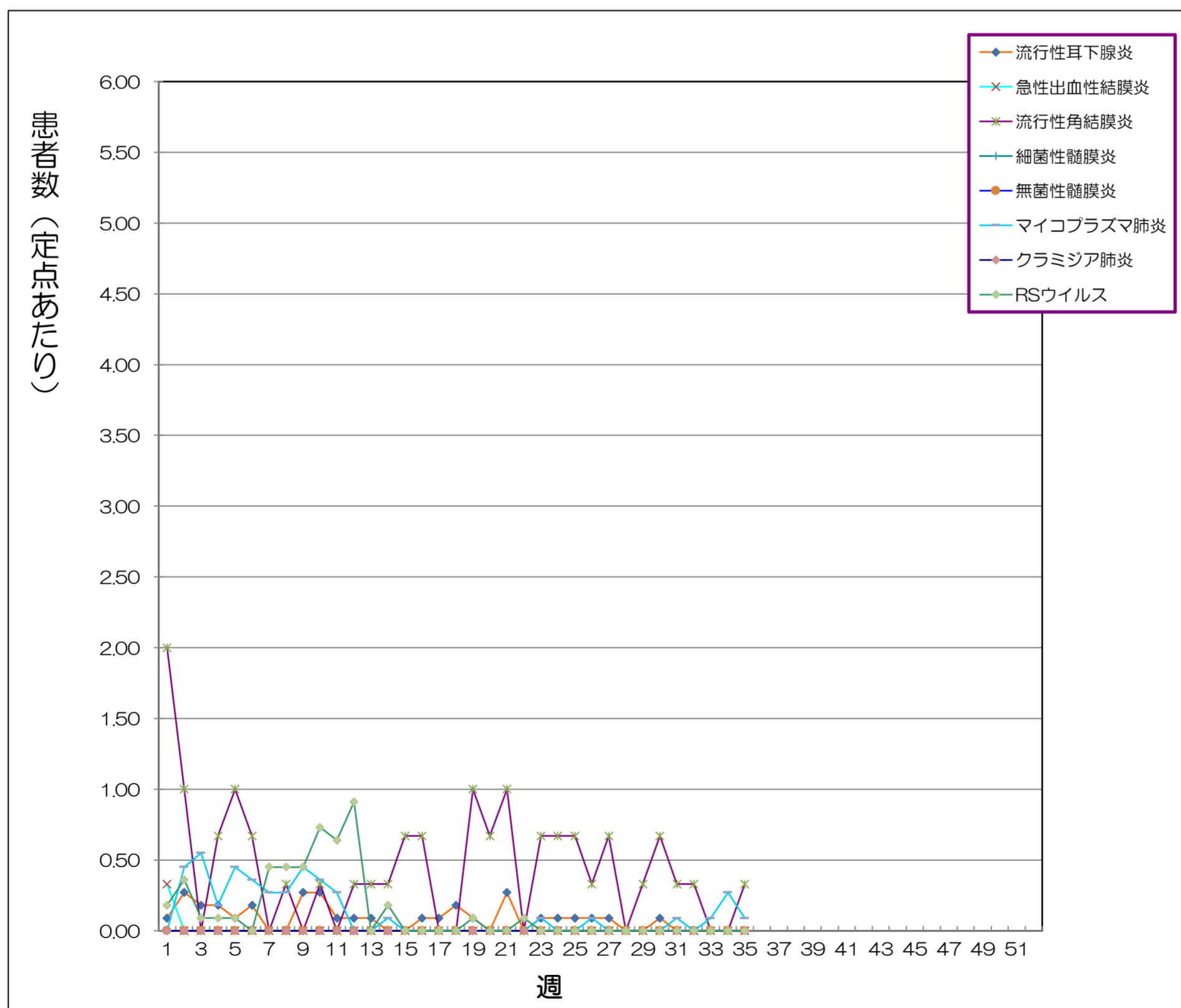
全数報告 (大分市内医療機関分)	年代	14歳以下	15～19歳	20～24歳	25歳以上
	麻しん	0	0	0	0
	風しん	0	0	0	0
	百日咳	0	0	0	1

# 週別・疾病別患者数(グラフ)

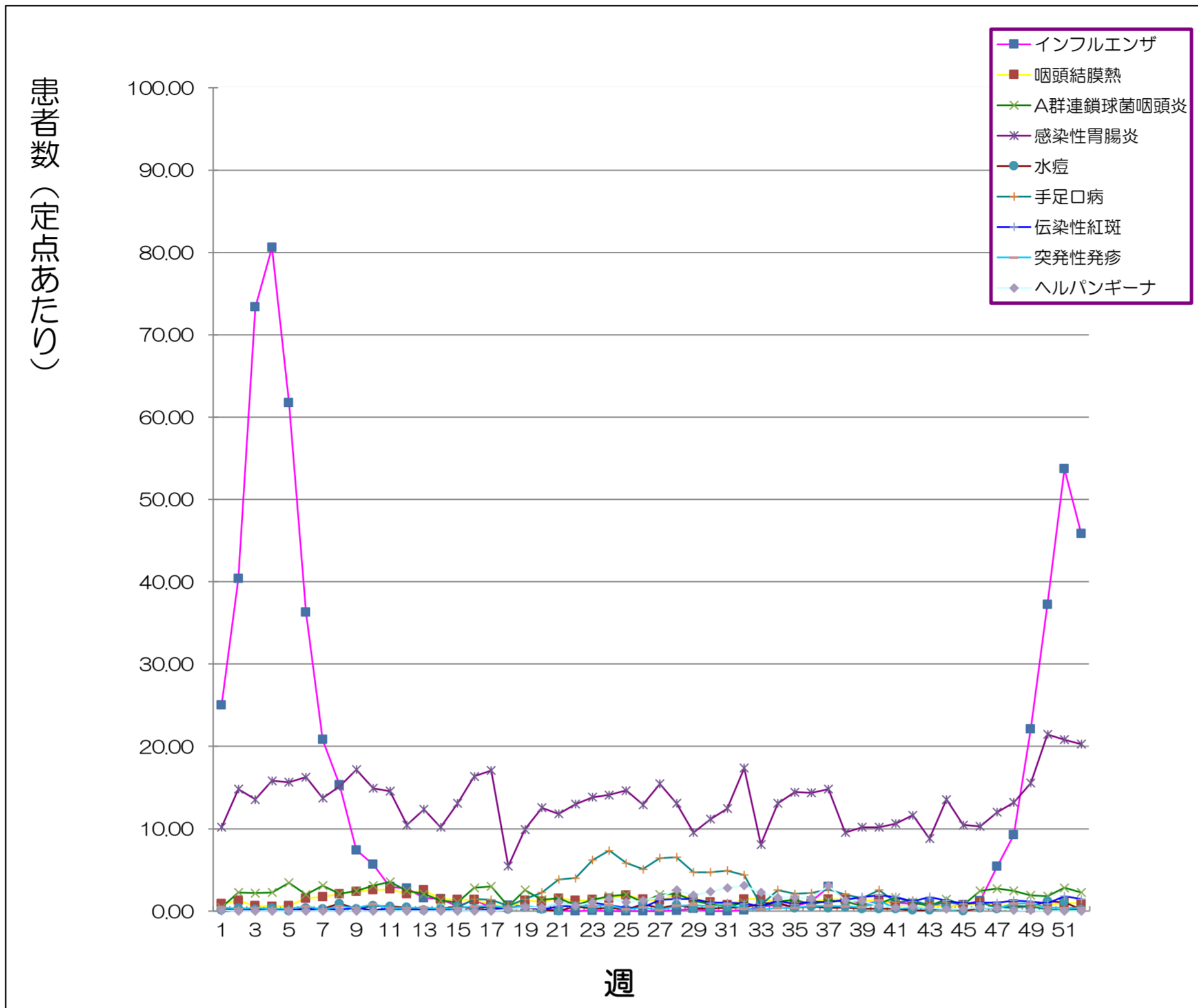
2020



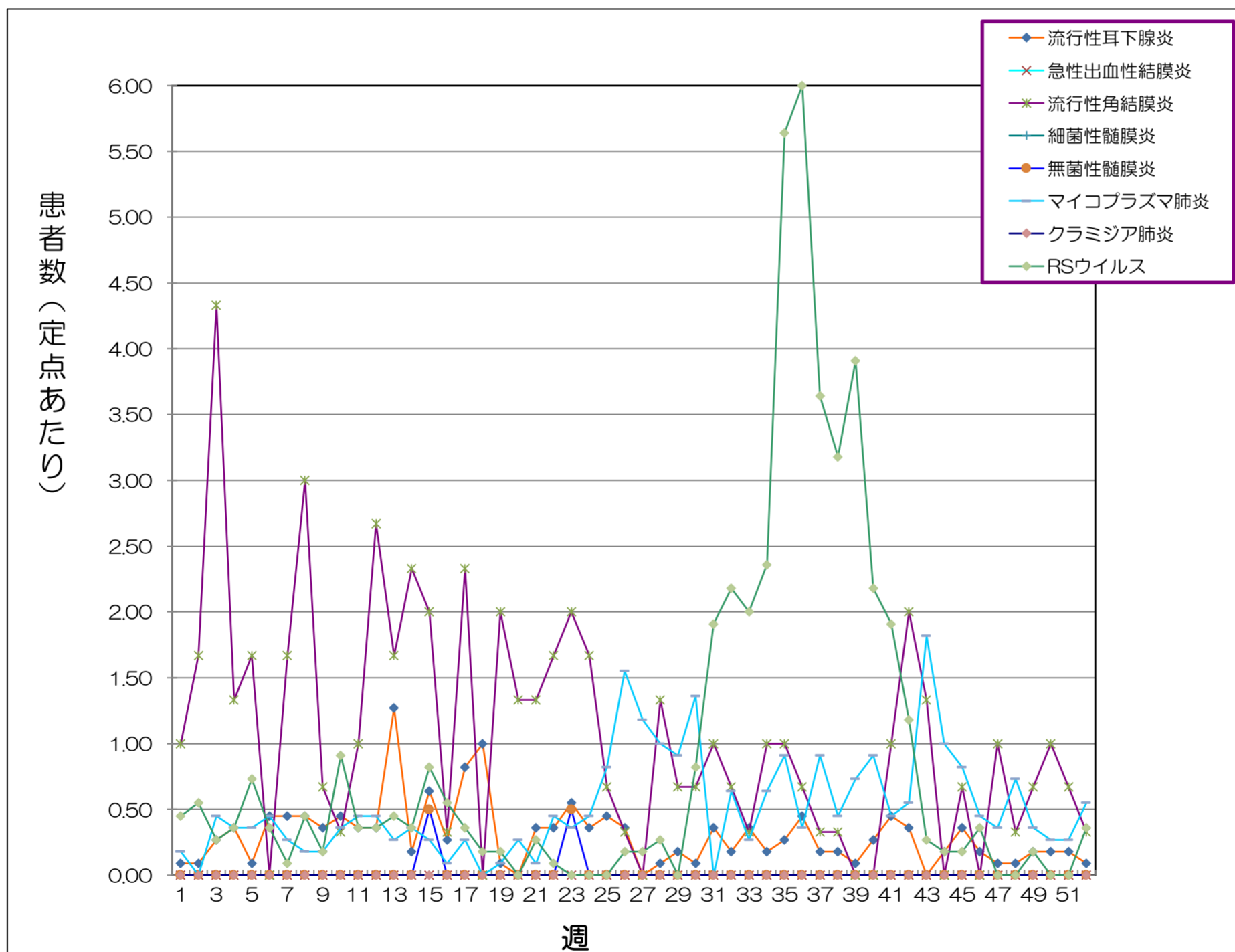
2020



# 2019



# 2019



掲載内容について、不明な点は下記へお問い合わせ下さい。

大分市保健所 保健予防課  
 電話 (097) 536-2851  
 FAX (097) 532-3356